

センター行事メモ

●表彰関係

—所内—

賞の種類：有功賞

受賞件名：固体水素による低温固相内化学反応の研究

受賞日：平成17年6月15日

受賞者：熊田 高之（ソフトマター中性子散乱研究グループ）

●外国人研究者招聘

年 月 日	招 聘 者	招 聘 目 的
17. 4.24～ 4.30	Dr. Arokiasamy Joseph Francis ブルックヘブン国立研究所	重元素マイクロバイオロジーに関する研究 及び新機構発足後の研究に関する将来計画 についての議論
17. 6.29	Dr. Anthony Paim Toste 南西ミズーリ州立大学	「環境中における有害元素-有機物錯体の分 解と分析」に関する講演

●基礎科学セミナー

回	年月日	講 演 者	開 催 テ ー マ
286	17. 3.11	Joel Mesot (チューリッヒ工科大学及びポール シェラー研究所)	The Abrikosov Phase of High-Temperature Superconductors: Neutron Scattering Stu- dies
287	17. 3. 8	眞榮平 孝裕 (琉球大学理学部・講師)	アクチニド-115系化合物のバンド計算



第 5 回先端基礎研究国際シンポジウム ～世界物理年を記念して～

「アクチノイド化合物における物理と化学の進歩」

日時：平成 17 年 9 月 27 日（火）～29 日（木）

場所：東海研究所先端基礎研究交流棟 1 階大会議室

主催：日本原子力研究所先端基礎研究センター

後援：日本物理学会、日本原子力学会、世界物理年日本委員会

先端基礎研究国際シンポジウムは、先端基礎研究センターが我が国の原子力基礎科学研究の中核的拠点として世界の当該分野の研究をリードし、活動の国際的展開を推進することを目的とし、当センターがイニシアチブをとって研究成果を発信するとともに情報交換を行う場としてこれまでに 4 回にわたって開催されてきた。

世界物理年記念シンポジウムという位置づけで第 5 回を開催するにあたり、当センターが国内のみならず国際的にも先導的な役割を果たしているアクチノイド化合物の物理と化学に関する研究をシンポジウムのテーマとして取り上げることとした。アクチノイド化合物の 5f 電子系を中心に、希土類化合物の 4f 電子系も含めて、f-電子系化合物の基礎的性質に関する最先端の研究成果や今後の展望を議論する。とりわけ、最近、急速に研究が進展しているネプツニウムおよびプルトニウム化合物などの超ウラン化合物の磁性と超伝導を積極的にテーマとして取り上げる予定である。

招待講演者：G. H. Lander (ITU, Karlsruhe)、F. Wastin (ITU, Karlsruhe)、J.-P. Sanchez (CEA, Grenoble)、J. D. Thompson (LANL)、J. L. Smith (LANL)、Z. Fisk (UC Davis)、R. G. Haire (Oak Ridge)、P. M. Oppeneer (Uppsala Univ.)、Q. Si (Rice Univ.)、G. Zwircknagl (Braunschweig)、P. Thalmeier (Dresden)、上田和夫（東京大学物性研究所）、倉本義夫（東北大学理学部）、山上浩志（京都産業大学）、村上洋一（東北大学理学部）、塩川佳伸（東北大学金属材料研究所、超ウラン化合物研究グループリーダー）、芳賀芳範（ウラン物質開発研究グループサブリーダー）、R. E. Walstedt（ウラン NMR 研究グループリーダー）、目時直人（ウラン中性子散乱研究グループリーダー）、R. H. Heffner（アクチノイド SR 研究グループリーダー）ほか。

堀田貴嗣（先端基礎研究センター多体電子系理論研究グループリーダー）